

Check!

「自分は大丈夫だと思っていませんか？」

だまされたいために
賢い消費者になろう!!

ウェブサイトで閲覧中の 二セの警告音にだまされないで

パソコンで動画を見ていたら、突然警告音が鳴り出し、止まらなくなった。パニック状態になり、画面に出ている「対策をする」という表示の電話番号に連絡してしまっただ。電話の相手が、1万円ほど払えば音を消してくれると言っているので、仕方なくお願いし、クレジットカード番号を教えた。相手の指示に従いパソコンを操作した後、遠隔操作により警告音と画面は消えたが、不審である。

(60歳代男性)



出典: 独立行政法人国民生活センター

- パソコンでサイトの閲覧中に、突然、警告音が鳴り出し、「ウイルスに感染した」等という警告表示が表れたまま消えず、画面上の電話番号に連絡させるように仕向ける事例が報告されています。音や画面表示が出て、とにかく慌てず、落ち着くことが大切です。
- 画面の連絡先に電話をすると、「警告音や画面を消すため」とウイルス対策ソフト等をインストールさせられ、料金を請求されることがあります。決して画面の連絡先に、電話をしてはいけません。
- 警告音や画面を消す方法は独立行政法人情報処理推進機構 (IPA) のホームページが参考になります。
- 困ったときは、早めにご相談ください。

ひとこと助言

問い合わせ

市民生活課 生活環境係 ☎75-6117 消費者ホットライン☎118

KUSABA HAISEN

没後150年記念行事

草場 佩川 その4

草場佩川の会

新入学の季節を迎えました。多久聖廟の石門を見上げると、中央の額に「仰高」と彫られています。「仰高」とは、弟子が孔子の学問の道を仰ぎみて讃えた「論語」の一節から生まれた言葉です。この「仰高門」は嘉永6年(1853)に建てられ、草場佩川によって書き上げられました。明治になって台風で倒壊しましたが、明治末の大改修によって復元されました。当初の額石は聖廟展示館に保管されています。当時佩川は佐賀藩校弘道館に出仕しており、この石門の造作には佩川の長男である船山が立ち会い、石の切り出しから刻字、落成までを見守りました。また東原庵舎の「初入門心得之条々」「東原精舎規則」なども佩川の起案、筆によるものです。



佩川、船山父子は共に教育に多大な功績を残しています。佩川没後150年、船山没後130年。「仰高」の二文字をあらためて心に刻みたいものです。
(文責 尾形恵子)

問い合わせ

草場佩川の会 桑原峰俊 ☎75-6824